

テクノス通信 VOL. 24 May.2011

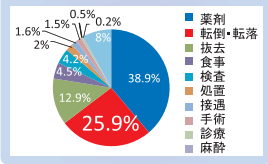


「病院での離床センサー設置・運用について」

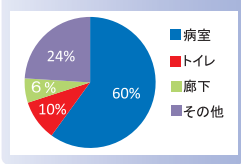
転倒・転落事故の物的対策として病院でも普及が進む離床センサー。しかし、導入したもののどのような場面でどこに設置をするか、また、どのような対象者にどのセンサーを適用するかの基準設定にお困りの方も多いのではないのでしょうか。今回はいくつかの病院様の適用基準をご紹介しますので、ご参考ください！

■転倒・転落事故と離床センサー普及の背景

医療事故事例別



転倒・転落事故発生場所



転倒・転落事故の5大要因

- ① 下肢筋力の低下
- ② 視力の低下
- ③ 認知力の低下
- ④ 環境の変化による混乱
- ⑤ 薬剤の影響

■人的対策

- ・組織体制の整備
- ・KYT 活動
- ・ラウンド
- ・アセスメントスコアシート
- ・ワーキンググループ

■物的対策

- ・事故による障害を抑える対策
→低床ベッド・ヒッププロテクター・衝撃緩和マット等
- ・事故を未然に防ぐ対策
→離床センサー

■病院におけるセンサーの運用例

離床センサー適用基準

アセスメント結果+センサー別基準

T 病院様 病床数約 300 床

＜離床センサー導入の経緯＞

危険度が高く、行動予測ができない患者に対し、事故に繋がる危険行動を把握する目的で導入。拘束を行う側の精神的苦痛から、身体拘束を行わずに事故を防止する狙いもあった。

＜導入センサー＞

- コールマット・コードレス (HC-R)
- ベッドコール・コードレス (BC-R)
- サイドコール・コードレス (SC-R)

＜離床センサーの適用基準＞

アセスメント評価危険度Ⅱ以上の患者に適用を検討+下記基準から機種を選定。



- ・自立歩行可能
- ・転倒リスク低
- ・ナースコール使用しない
- ・徘徊や不穏行動あり



- ・自立歩行不可能
- ・転倒リスク高
- ・装着物がある (ドレーン・チューブなど)
- ・せん妄状態



- ・自立歩行可能
- ・転倒リスク中
- ・ベッド上で体動が多い
- ・センサーを避けるなど
コールマットが適合しない

＜離床センサーの管理と運用＞

病棟ごとに分割管理している。センサーには管理番号を付け、管理表で使用状況を把握している。病棟間の貸し借りも可能。看護安全委員会で、効果的な運用を行うための工夫や対策を協議している。

離床センサー適用基準

アセスメント結果+細分適用項目

K 病院様 病床数：約 330 床

＜離床センサー導入の経緯＞

70 歳以上の患者割合が 60% に急上昇。それに伴い転倒・転落事故の発生件数が増加した事から、患者の危険行動を効率的に発見し対応するため 2007 年に導入。

＜導入センサー＞

- コールマット・徘徊コールⅢ(HC-3)
- ベッドコール・コードレス (BC-R)
- サイドコール・コードレス (SC-R)

＜離床センサーの適用基準＞

アセスメント評価危険度Ⅱ以上且つ下記①～⑨の項目の該当により、機種を選定。

- ① 不穏行動
- ② 認知症症状
- ③ 車椅子・杖・歩行器使用
- ④ 判断・理解力低下
- ⑤ ナースコールを押さずに行動しがち
- ⑥ 落ち着かない
- ⑦ ふらつき・筋力低下
- ⑧ トイレまで距離がある
- ⑨ 平衡感覚障害がある



- ・該当項目：⑤⑧
- ・一人でベッドから離れる
- ・体動コールを外してしまう



- ・該当項目：③⑨
- ・コールマットを避ける
- ・体動コールを外してしまう



- ・該当項目：①⑥
- ・コールマットを避ける
- ・ベッド上で体動が多いため、ベッドコールが適合しない

＜離床センサーの管理と運用＞

管理方法・対象者・設置方法・使用上の注意点・メンテナンス方法等が細かく規定した『離床センサー運用マニュアル』を作成し、管理・運用している。センサーには管理番号を付け ME 室で一括管理し、必要に応じて病棟に貸出す。病棟間でのセンサー貸借りは禁止している。

離床センサー適用基準

アセスメント結果+病棟適用基準

N 病院様 病床数：約 850 床

＜離床センサー導入の経緯＞

床敷きタイプのセンサーを導入していたが、故障が多く対応できない患者がいる事から、故障の少なさ、幅広い対象者に対応できる点を重視し、赤外線コールを導入。

＜導入センサー＞

- コールマット・徘徊コールⅢ(HC-3)
- 赤外線コール (HIB-R)

＜離床センサーの適用基準＞

病棟ごとに適用患者を選定している。特に、脳神経外科・神経内科・整形外科・膠原病内科での使用が多い。



赤外線コール



- ・コールマットを避ける
- ・急変する容態や状態に合わせ、報知するタイミングを変えたい
- ・断線故障なく、より衛生的にセンサーを使いたい

＜離床センサーの管理と運用＞

ME 機器センターで一括管理している。バーコードによる貸出し管理で、使用 / 返却状況が明らかになりスムーズな運用が可能。赤外線コールは一式を袋に入れて運用。(右写真参照)



ちょっとポイント！

対象者の ADL に応じた設置基準は重要ですが、「どのタイミングで報知してほしいか」という、報知タイミングでの設置を併せて検討することが大切です。

